

茶人、茶を語らず

趣味の茶道のことを当コラムで何度かとりあげてから、顧問先様から話題に挙げていただく機会が増えました。「税金豆知識」のようなものでお茶を濁すのは避け、日々の仕事や生活の中で感じたことをお伝えしたいという一心で、ネタをふりしぼっているうちに、内緒にしておいた茶道の話に行きついたというのが正直なところです。

そのような事情があるとはいえ、茶歴の長い諸兄姉がおられるにもかかわらず、駆け出し者の浅薄な知識を披歴してしまっており、本当に恥ずかしい限りです。

さて、そういう羞恥の気持ちとともに、茶道をたしなむ人が、そもそもそれを公言するものだろうかという疑問も湧きあがってきました。そして調べていくうち、「税務署が怖いから多くの方は黙っているのだ」というネット記事にたどり着いた時には、心底驚きました。高価な茶道具の数々をそろえているのだろうと勘ぐられて、相続税の申告のときに痛くもない腹を探られるのが嫌だからだ、というのです。

おそらく、そのネット記事を書いた人は、茶人の実態を知らないままに、当てずっぽうを書いたのだと思いますが、えらい師範か、よほどのコレクターでなければ相続財産に特記すべき茶道具が出てくることはまずないのです。実際、筆者はヤフオクの落札額が家庭不和の原因になることを承知しているので、生涯の茶道具をかき集めても「家財道具一式いくら」の範囲に十分におさまるだろうと思います。

そう言えば、相続税の調査で被相続人がお茶の先生をしていたという情報を得た調査官が、茶道具の評価をうるさく言うので、「あなたは人間国宝の名品や家元書付の茶道具を、こうやって無造作に重ねて置いておきますか」と、厳しく料簡を改めさせたこともありました。税務署の認識といっても、その程度のことだと思えます。

茶人が、必要なとき以外に茶道のことをあれこれ言わないのは、税務署が怖いからではなく、修練を積んだ者が本来備えているべき奥ゆかしさのゆえだと思えます。大寄せの茶会ときには、正客を勧められても、「お歴々の先生方がいらっしゃるなか、不勉強でございますので、どなたかをお願いいたします」と言って必ず二度は断り、三度目に「それでは、ふつつかながら、高上りさせていただきます」と引き受けるのが礼儀なのです。

そうしてみると、いくらコラムのネタが尽きたからといって、茶道について訳知り顔にいろいろと書きつけるのは、茶人の風上にも置けない所業だということになります。

■ 初めての茶会参加

そのような無作法を承知のうえで、筆者が最初で大寄せの茶会に出席したときのことを、ご紹介したいと思います。

今年は新型コロナの影響で中止になってしまいましたが、大濠公園の日本庭園にある茶室で、恒例の秋季茶会が催されています。社中の先輩方に連れられて待合の席につき、濃茶の席に招かれるのを待っていると、圧倒的に女性が多く、男性の多いわが社中は特異な存在なのだと分かります。

順番が来ると二十人程の団場で、濃茶席に移動して床の間の掛軸を拝見します。その日は、淡々齋宗匠の見事な墨蹟で「吟風」としたためられていました。

濃茶を頂きながら、そういえば数日前の中秋の名月は美しかった、吟風とはまさに月を愛するときの風情だなあ、などと考えていました。

家に帰って(ネットで調べて)気づいたのですが、「吟風弄月」で成句をなし、「風を吟じ、月を弄ぶ」は、月を眺め詩を吟ずる姿を表しています。

濃茶席が終わると、今度は大広間で薄茶を頂くこととなります。ここは三十人ほどの大所帯で一同に会することとなります。ちなみに昨年、筆者がお点前を務めさせていただいたのがこの席でした。

「吟風」の掛軸のあとに、薄茶席の大広間で拝見した掛軸が「掬水月在手」です。

この句は、私の好きな詩の一片で、「水を掬すれば月手にあり、花を弄べば香衣に満つる」と続きます。小川の水を手ですくってみると、そこにちょうど月が映り、花を弄べば、花の香りが衣に満つるという、とても贅沢な気持ちにさせてくれる、中国唐時代の詩です。

濃茶席の掛軸を四字熟語にすると「吟風弄月」であると気が付いていれば、二つの掛軸が響きあっていて、お茶会全体のテーマが統一されているのが分かります。

初めてのお茶会の経験で、作法も見様見真似にすぎませんでした。あとから記憶を辿ってみると、いろいろな気付きを与えてくれます。これが、即座に亭主の趣向を読み取り、茶道具の問答に織り交ぜることができるようになれば、誰はばかることなく正客を務められる真の茶人なのでしょうが、茶会初参加のときから今日に至るまで、遠い先の目標に過ぎません。

それから、最初の茶会に洋服で来るように言われた理由も、後になってようやく理解できました。男性が着物を着ていると、最も難しく熟練の必要な場所に押しやられてしまうからです。無防備に座っていて、正客に勧められたときに断り方を知らなかったりすると、それは悲惨な体験になってしまいます。

秋の季節の良い時期には、茶道の各流派が一同に集う「市民大茶会」と、日本庭園の茶室で催される「秋季茶会」が開かれます。来年、コロナが終息していれば、大濠公園のお茶会が復活します。初心者の方も気軽に参加できますので(男性は着物を避けるという注意は必要ですが)、ぜひお立ち寄りください。タイミングさえ合えば、ご案内差し上げることができるとも思いません。

(所長 瀬戸 英晴)